

15 生活訓練利用者における実車運転評価と神経心理学的検査との関連性について

自立支援局第一自立訓練部 水谷宣昭 茅根孝雄 石森伸吾 安部恵理子 林八重

自立支援局第二自立訓練部 熊倉良雄

企画・情報部 高次脳機能障害情報・支援センター 今橋久美子

【はじめに】

平成27年度より高次脳機能障害者の自動車運転と神経心理学的検査との関連性について調査を行ってきた。今年度は実車運転評価で行っている運転基礎感覚評価項目（15項目）と神経心理学的検査の関連性について報告する。

【対象】

過去12年間に、実車運転評価を実施した生活訓練利用者99名のうち、生活訓練利用開始時の神経心理学的検査結果（TMT-A・B〈78名〉、コースIQ〈78名〉、MMSE〈75名〉、RBMT〈66名〉、BADS〈60名〉）がある者を対象とした。

【方法】

実車運転評価により、15項目の評価項目それぞれについて、評価項目の内容ができた群をA群、できなかった群をB群とし、両群間で神経心理学的検査結果についてU検定を用いて比較した。各評価項目の内容ができた人数の割合を低い順から並べ難易度とした。

コースIQ	TMT-A	TMT-B	BADS	RBMT	運転基礎感覚評価項目		難易度	
					走行位置感覚	⑪左側及び右側の障害物と間隔を保つことができるか。	35.9%	1
	*	**			走行位置感覚	⑫右左折、カーブの走行位置は安定しているか。	42.3%	2
**	**	**	**		安全確認・範囲	⑥交差点で左右の安全確認をしているか。	50.0%	3
**	**	**			安全確認・範囲	⑦前方を注視の状態左横、右横を注意することができるか。	50.0%	3
*	**	*			走行位置感覚	⑩道路の左端を約30km/h以上の速度で直進走行することができるか。	52.6%	5
**	**	**			走行位置感覚	⑭進路変更後に安定した進路を保つことができるか。	56.4%	6
**					走行位置感覚	⑨道路左端に駐車することができるか。	61.5%	7
*	**	**	*	**	合図	②発進・駐車時に合図を出しているか。	67.9%	8
**	**	**	**	*	走行位置感覚	⑬右左折時に進路変更をしているか。	67.9%	8
**	**	**	*	*	走行速度	⑮走行場所に応じてメリハリのある速度で走行することができるか。	71.8%	10
	**	**			合図	④進路変更時に合図を出しているか。	76.9%	11
**	**	**			発進・駐車	①前進・後退及び駐車のための操作は安全、円滑にできるか。	83.3%	12
*		*	*		走行位置感覚	⑧常時、左側通行ができるか。	85.9%	13
					合図	③右左折時に合図を出しているか。	92.3%	14
					安全確認・範囲	⑤発進時、目視またはミラーで安全確認をしているか。	92.3%	14

**p<0.01 *p<0.05 難易度:1難~14易

【結果】

評価項目15項目のうち、③右左折時に合図を出しているか。⑤発進時、目視またはミラーで安全確認をしているか。⑪左側及び右側の障害物と間隔を保つことができるか。の3項目を除く12項目において両群間に有意な差が認められた。

12項目の評価項目で有意な差が認められたことから、神経心理学的検査の組み合わせによる実車評価前のスクリーニング的検査は実車評価を実施できない施設等で有効であると考えられる。

難易度が一番高く、有意な差が認められなかった評価項目⑪については、神経心理学的検査結果のみでは判定が難しく、実車評価を実施することが望ましいと考える。